



## 11月は薬剤耐性 (AMR) 対策推進月間です

特定の種類の抗菌薬が効きにくくなる、または効かなくなることを、「**薬剤耐性 (AMR)**」と言います。耐性を得た細菌「**耐性菌**」が増えると抗菌薬が効かなくなることから、これまでは、感染、発症しても適切に治療すれば軽症で回復できた感染症の治療が難しくなって重症化しやすくなり、さらには死亡に至る可能性が高まります。

### 抗菌薬は医師や薬剤師の指示を守って使いましょう

医師から処方された薬を、症状が軽くなったからといって途中で止めてしまったり、勝手に量や回数を変更したことはありませんか？

医薬品は、医師や薬剤師の指示から外れた使い方をすると、十分な効果が期待できません。特に抗菌薬については、こうした不適切な使い方をすると新たな耐性菌が出現するリスクが高まります。



### 風邪などウイルスによる感染症に

#### 抗菌薬は効きません

抗菌薬は主に細菌に対して効果があるものであり、不適切な使い方により、その抗菌薬が将来効かなくなることがあります。

必要のない抗菌薬を服用することで、体内にいる細菌がその抗菌薬への耐性を持つ可能性が高くなります。

薬剤耐性 (AMR) の拡大を防ぐには、私たち一人ひとりが抗菌薬を適切に使用することが重要です。特に、免疫力の弱い乳幼児や妊婦、高齢者、また、持病を持つ人は、感染症にかかると重症化しやすいため、耐性菌が広まり使用できる抗菌薬が減ると、命の危険が高まります。

薬剤耐性 (AMR) の拡大防止は、私たちにとって非常に重要なことなのです。

政府広報オンライン「抗菌薬が効かない「薬剤耐性 (AMR)」が拡大！一人ひとりができることは？」(<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201611/2.html>)をもとに作成

定点種別	疾患名	状況	42週(10/14~10/20)		43週(10/21~10/27)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
COVID-19	インフルエンザ	—	9	0.36	11	0.44
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	/	27	1.08	28	1.12
小児科	RSウイルス感染症	/	7	0.44	2	0.13
	咽頭結膜熱(プール熱)	—	5	0.31	3	0.19
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	—	38	2.38	37	2.31
	感染性胃腸炎	—	36	2.25	48	3.00
	水痘(みずぼうそう)	—	0	0.00	1	0.06
	手足口病	○	154	9.63	135	8.44
	伝染性紅斑(りんご病)	—	0	0.00	1	0.06
	突発性発しん	/	11	0.69	10	0.63
	ヘルパンギーナ	—	2	0.13	3	0.19
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	—	1	0.06	1	0.06
眼科	急性出血性結膜炎	—	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	—	9	1.80	11	2.20
基幹	細菌性髄膜炎	/	1	0.20	0	0.00
	無菌性髄膜炎	/	0	0.00	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎	/	9	1.80	12	2.40
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	/	0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	/	0	0.00	0	0.00

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。

○:警報レベル △:注意報レベル —:警報・注意報レベルなし